

第92回 簿記実務検定第2級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	当	座	預	金	積	送	品	未	着	商	品					
前	受	家	賃	社	債	資	本	金	繰	越	利	益	剰	余	金		
受	取	手	数	料	受	取	家	賃	仕	入	交	通	費				
支	払	家	賃	社	債	利	息	創	立	費	株	式	交	付	費		
社	債	発	行	費	現	金	過	不	足	船	橋	支	店	松	戸	支	店
本		店		損													益

- a. 徳島商店に委託販売のため、原価 ¥750,000 の商品を発送した。なお、発送に要した諸費用 ¥14,000 は現金で支払った。
- b. 東西商事株式会社は、決算の結果、当期純損失 ¥293,000 を計上した。
- c. 香川産業株式会社は、次の条件で発行している社債について、半年分の利息を小切手を振り出して支払った。

<u>発行条件</u>	額面金額	¥20,000,000	利率	年1.3%	利払い	年2回
-------------	------	-------------	----	-------	-----	-----
- d. 千葉商店の船橋支店は、松戸支店の仕入先に対する買掛金 ¥180,000 を現金で支払った。ただし、本店集中計算制度を採用している。(船橋支店の仕訳)
- e. 茨城産業株式会社は、企業規模拡張のため、株式30,000株を1株につき ¥800 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この株式の発行に要した諸費用 ¥470,000 は小切手を振り出して支払った。
- f. 高知商店（個人企業）は、前期末の決算において、家賃の前受高を次のとおり前受家賃勘定に振り替えていたが、当期首にあたり、この前受高を再振替した。

		前 受 家 賃	
<u>12/31</u>	<u>次 期 繰 越</u>	<u>124,000</u>	
			12/31 受取家賃 <u>124,000</u>
			1/ 1 前期繰越 <u>124,000</u>

- g. かねて、現金の実際有高を調べたところ ¥32,000 であり、帳簿残高は ¥34,000 であったので、帳簿残高を修正して原因を調査していたが、決算日に、受取手数料 ¥2,000 と交通費 ¥4,000 の記入もれがあることが判明した。

2

- 次の取引を特殊仕訳帳としての当座預金出納帳と売上帳に記入し、総勘定元帳と売掛金元帳に転記しなさい。
 ただし、i 総勘定元帳への転記は、特殊仕訳帳から直接おこなうこと。
 ii 特殊仕訳帳は、月末に締め切るものとする。
 iii すでに記入してある取引も転記すること。
 iv 総勘定元帳と売掛金元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。
 v ほかに特殊仕訳帳として、現金出納帳と仕入帳を用いている。

取引

1/月/9日 神奈川商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥180,000 は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。なお、残額は掛けとした。

B 品 800個 @ ¥600 ¥480,000

2/日 埼玉商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 450個 @ ¥800 ¥360,000

25日 埼玉商店に売り渡した上記商品のうち一部が、次のとおり返品された。

A 品 30個 @ ¥800 ¥ 24,000

29日 仕入先栃木商店あてに振り出していた約束手形 ¥210,000 が、本日、支払期日となり当座預金口座から支払われたとの連絡を取引銀行から受けた。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 東京商事株式会社（決算年/回 12月31日）の下記の資料によって、次の金額を答えなさい。
 a. 当期の純仕入高 b. 決算日における法人税等の未払額
 c. 繰越利益剰余金勘定の次期繰越高

資料

i 3月28日におこなわれた株主総会において、前期の繰越利益剰余金の配当および処分が次のとおり決議されている。

利益準備金 ¥60,000 配当金 ¥600,000 別途積立金 ¥100,000

ii 総勘定元帳勘定（一部）

		繰越商品			
1/1	前期繰越	640,000	12/31	仕入	640,000
12/31	仕入	570,000	〃	次期繰越	570,000
		<u>1,210,000</u>			<u>1,210,000</u>

		仮払法人税等			
8/28	当座預金	<u>130,000</u>	12/31	法人税等	<u>130,000</u>

		繰越利益剰余金			
3/28	諸口 ()		1/1	前期繰越	920,000
12/31	次期繰越 ()		12/31	損益 ()	
	()			()	

		損益		
12/31	仕入 ()	12/31	売上	8,460,000
〃	給料 1,800,000			
〃	減価償却費 600,000			
〃	雑費 34,000			
〃	法人税等 275,000			
〃	繰越利益剰余金 625,000			
	<u>8,460,000</u>			<u>8,460,000</u>

- (2) 群馬商店では5伝票制を採用し、仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法で起票している。よって、
- 6月/5日の略式の伝票を集計したさいの仕訳集計表の(ア)と(イ)に入る金額を計算しなさい。ただし、下記の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。
 - 下記の仕訳集計表から、総勘定元帳に転記後の売上勘定の残高を計算しなさい。ただし、6月/4日の売上勘定の残高は¥4,835,000(貸方)であった。

取 引

6月/5日 伊勢崎商店から商品 ¥324,000 を仕入れ、代金はさきに支払っていた内金 ¥132,000 を差し引き、残額は現金で支払った。

入金伝票	
売掛金	132,000
受取手形	109,000
売掛金	154,000
()	()

出金伝票	
当座預金	90,000
買掛金	65,000
消耗品費	17,000
()	()

売上传票	
高崎商店	374,000
桐生商店	308,000
桐生商店(返品)	21,000
前橋商店	396,000

仕入伝票	
沼田商店	231,000
渋川商店	385,000
渋川商店(値引)	13,000
()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
受取手形	452,000	売掛金	452,000
買掛金	143,000	当座預金	143,000
当座預金	12,000	受取手数料	12,000
当座預金	207,000	売掛金	207,000
消耗品費	28,000	当座預金	28,000
()	()	()	()

仕訳集計表
令和〇年6月/5日

借方	平	勘定科目	平	貸方
		現金		
		当座預金		
		受取手形		
		売掛金		
		前払金		
(ア)		買掛金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		消耗品費		
				(イ)

(3) 支店会計が独立している愛媛商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の下記の資料によって、次の金額を計算しなさい。

- a. 支店勘定残高と本店勘定残高の一致額 b. 本支店合併後の通信費

資 料

i /2月30日における元帳勘定残高（一部）

	本 店	支 店
現 金	¥ 905,300	¥ 561,900
通信費	208,100	117,000
支 店	734,000 (借方)	——
本 店	——	482,000 (貸方)

ii /2月3/日における本支店の取引

- ① 本店は、通信費 ¥29,400（うち支店負担分 ¥10,700）を現金で支払った。支店は、その報告を受けた。
- ② 支店は、本店の売掛金 ¥311,300 を現金で受け取った。本店は、その報告を受けた。
- ③ 支店は、本店が/2月29日に送付していた送金小切手 ¥35,000 と商品 ¥217,000 を受け取った。

4 四国商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、損益計算書（2区分）と貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現 金	¥ 972,000	当 座 預 金	¥ 2,950,000	受 取 手 形	¥ 2,100,000
売 掛 金	2,850,000	貸 倒 引 当 金	7,000	有 価 証 券	1,845,000
繰 越 商 品	2,160,000	備 品	1,200,000	備品減価償却累計額	300,000
支 払 手 形	1,254,000	買 掛 金	1,423,000	借 入 金	1,800,000
資 本 金	8,200,000	売 上	21,362,000	受 取 手 数 料	35,000
仕 入	12,874,000	給 料	5,910,000	支 払 家 賃	930,000
保 険 料	423,000	消 耗 品 費	76,000	雑 費	61,000
支 払 利 息	30,000				

付 記 事 項

- ① 土佐商店に対する売掛金 ¥450,000 が当店の当座預金口座に振り込まれていたが、記帳していなかった。

決 算 整 理 事 項

- a. 期末商品棚卸高 ¥1,830,000
- b. 貸 倒 見 積 高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定率法による。ただし、償却率は25%とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
松山商事株式会社 300株 時価 /株 ¥6,500
- e. 消耗品未使用高 未使用分 ¥29,000 を消耗品勘定により繰り延べること。
- f. 保険料前払高 保険料のうち ¥276,000 は、本年8月/日から/年分の保険料として支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利息未払高 未払額 ¥15,000 は当期分のため、見越し計上する。

第92回 簿記実務検定 2級 **商業簿記** [解答用紙]

	借 方	貸 方
1		
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

1		2		3		4		総得点	
得点		得点		得点		得点			

試 験 場 校	受 験 番 号

当座預金出納帳

令和 〇年	勘定科目	摘要	円	売掛金	諸口	令和 〇年	勘定科目	摘要	円	買掛金	諸口
		前ページから		450,000	230,000			前ページから		670,000	120,000
/ 12	売掛金	神奈川商店		380,000		/ 8	仕入	厚木商店			130,000

売上帳

令和 〇年	勘定科目	摘要	円	売掛金	諸口
		前ページから		280,000	150,000
/ 18	受取手形	埼玉商店			100,000
	売掛金			250,000	
		C品 700個 @ ¥500			

総勘定元帳

当座預金		2	受取手形		3
1/1 前期繰越	580,000		1/1 前期繰越	270,000	
売掛金		4	支払手形		11
1/1 前期繰越	910,000		1/1 前期繰越	490,000	
買掛金		12	売上		21
	1/1 前期繰越	820,000			
仕入		26			

売掛金元帳

埼玉商店		2	神奈川商店		3
1/1 前月繰越	30,000		1/1 前月繰越	380,000	

3

(1)

a	¥	b	¥	c	¥
---	---	---	---	---	---

(2)

a	ア	¥	イ	¥
b	¥			

(3)

a	¥	b	¥
---	---	---	---

2	
得点	

3	
得点	

4

損 益 計 算 書

四国商店

令和○年/月/日から令和○年/2月3/日まで

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高		売 上 高	
仕 入 高		()	
()			
給 料		売 上 総 利 益	
()		受 取 手 数 料	
()		()	
支 払 家 賃			
保 險 料			
消 耗 品 費			
雑 費			
()			
()			

貸 借 対 照 表

四国商店

令和○年/2月3/日

(単位：円)

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金		支 払 手 形	
当 座 預 金		()	
受 取 手 形 ()		借 入 金	
貸 倒 引 当 金 ()		()	
売 掛 金 ()		資 本 金	
貸 倒 引 当 金 ()		()	
()			
()			
消 耗 品			
()			
備 品 ()			
減価償却累計額 ()			

4
得点